

重要文化財の《菜蟲譜》（さいちゅうふ）新発見の《果蔬図巻》（かそずかん）
共通した特徴を持つ伊藤若冲の名作のダブル展示が実現！
～4月25日開幕の「若冲到トリハダ！野菜もウリ！」展で期間限定展示～



伊藤若冲《菜蟲譜》（部分）
佐野市立吉澤記念美術館蔵
4月25日（土）～5月8日（金）
6月20日（土）～7月5日（日） 展示

伊藤若冲《果蔬図巻》（部分）
福田美術館蔵
通期展示



京都・嵐山の福田美術館（館長：川畑光佐）は、2019年10月の開館以来、「たとえ美術に詳しくない方が見ても、感動を覚えるような」をコンセプトに、江戸時代から近代にかけての日本画の名作・約2,000点のコレクションを有し、年4回の企画展を通して広く日本画の魅力を伝えています。

このたび、2026年4月25日に開幕する企画展「若冲到トリハダ！野菜もウリ！」に合わせて2023年に新たに発見され、福田美術館の所蔵品となった伊藤若冲の巻物《果蔬図巻》が約1年間の修理を経て福田美術館に帰ってきます。さらに、同じく伊藤若冲の筆で、国の重要文化財に指定されている《菜蟲譜》（佐野市立吉澤記念美術館所蔵）が福田美術館に初登場し、期間限定で2作品を並べて鑑賞できる美術ファン垂涎の企画が実現します。《菜蟲譜》が関西で展示されるのは2018年以来8年ぶりとなります。

菜蟲譜×果蔬図巻 ダブル展示概要

《菜蟲譜》は11mに及ぶ絹本着色の巻物で、前半部分に野菜や果物、後半部分に昆虫、蝶、爬虫類などの数々の生き物が描かれた、国指定重要文化財の大作です。一方、《果蔬図巻》は寛政2年（1790）、若冲が75歳以前に描いた全長3m余りの作品で、美しい色彩を用いて様々な野菜や果物が描かれた絹本着色の巻物です。若冲は本作の翌年に《菜蟲譜》を描いており、両作品には登場する野菜や彩色方法などに共通点が見られます。

また、モチーフや技法の共通点だけでなく、青物問屋を営んでいた若冲ならではの果物や野菜に対する優しいまなざしを感じることができます。文化財保護のため限られた期間しか展示することができない《菜蟲譜》と《果蔬図巻》が共に並ぶ、極めて稀少な機会です。

菜蟲譜 展示期間

2026年4月25日（土）～5月8日（金） 14日間

2026年6月20日（土）～7月5日（日） 16日間

果蔬図巻 展示期間

2026年4月25日（土）～7月5日（日） 全期間

若冲作の初公開作品は7点に！～他作家の新規購入作品含め10点の新作が登場～

企画展「若冲到リハダ！野菜もウリ！」では、菜蟲譜と果蔬図巻のダブル展示を目玉に、若冲最初期の作である《燕に双鶏図》はもちろん、**初期から晩年までの若冲作品約40点が一堂に会します。**

なかでも、2025年に福田コレクション入りした《老松白鶴図》と、個人蔵の《果蔬涅槃図》、《蛇図》など**初公開の若冲作品は7点にも及びます。**

また、箱根にある岡田美術館がかつて所蔵していた伊藤若冲《花卉雄鶏図》、《三十六歌仙図屏風》、円山応挙《群犬図》、長沢芦雪《牡丹孔雀図》の4点の名作もこの度福田コレクションに加わり、本企画展にて公開します。初公開作品に加え、若冲と同時代に京都で活躍した画家たちの優品の数々も見逃せません。

※詳細については2026年1月に発表するプレスリリースにてお知らせいたします。



伊藤若冲《果蔬涅槃図》（部分）個人蔵
5月9日～6月19日のみ展示



円山応挙《群犬図》（部分）福田美術館蔵
前期展示



伊藤若冲《老松白鶴図》（部分）
福田美術館蔵
通期展示

福田美術館学芸課長 岡田秀之のコメント

今なお人々を魅了し続ける伊藤若冲。彼が格別の愛情を込めて描いた傑作《果蔬図巻》と《菜蟲譜》が、本展にて史上初の同時公開を果たします。重要文化財である《菜蟲譜》が関西で公開されることは珍しく、8年ぶりの貴重な機会となります。2つの名品を見比べることができる稀有な体験を、できるだけ多くの方に味わっていただければと思います。

企画展「若冲到リハダ！ 野菜もウリ！」

開催概要

- 会期：2026年4月25日（土）～7月5日（日）
<前期：4月25日（土）～6月1日（月）／後期：6月3日（水）～7月5日（日）>
- 開館時間：10:00～17:00（最終入館 16:30）
- 休館日：5月12日（火）、6月2日（火）、6月16日（火）
- 場所：福田美術館（京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-16）

本件に関するお問合せ ※学芸員へのご取材希望も承ります。

「福田美術館」広報事務局（共同ピーアール内）

担当：田中真衣（080-8866-6183）、樋口（080-9510-3751）

Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp